

船舶事故調査報告書

平成22年12月9日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成22年3月24日（水） 10時20分ごろ
発生場所	長崎県佐世保市九十九島 ^{くじゅうくしま} 沖ノ六ツ瀬 ^{しもかれき} 下枯木島灯台から真方位035° 3.16海里（M）付近 （概位 北緯33° 14.8′ 東経129° 32.4′）
事故調査の経過	平成22年4月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客船 からつ丸、58トン 135404、唐津汽船株式会社 25.50m×5.58m×2.02m、FRP ディーゼル機関2基、1,029kW（合計）、平成9年3月
乗組員等に関する情報	船長 男性 33歳 五級海技士（航海） 免許年月日 平成15年12月18日 免状交付年月日 平成20年8月27日 免状有効期間満了日 平成25年12月17日
死傷者等	なし
損傷	船底キール部に擦過傷、両舷プロペラ翼に欠損及び曲損、両舷プロペラ軸、舵板、舵軸、舵用油圧シリンダに曲損、操舵機室内ブラケット部にき裂、両舷減速逆転機の摩擦板等に擦過傷
事故の経過	本船は、船長ほか2人が乗り組み、機関整備会社の技術員1人が同乗し、船首約0.8m、船尾約1.8mの喫水で、九十九島沖を約18ノットの速力で北進中、平成22年3月24日10時20分ごろ、下枯木島灯台から真方位035° 3.16M付近の沖ノ六ツ瀬の暗岩にプロペラ翼等が乗り揚げ、直後に自然に離礁した。 船長は、直ちに機関を中立とし、船体に浸水箇所が無いことを確認した後、機関を前進操作したところ、異常振動及び異音が発生した。 本船は、振動が少ない左舷機のみで発航地の佐世保港の造船所に向かい、航路途中で錨泊していた知人の船に依頼し、同船にえい航され、途中から自航して造船所に到着した。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風速 約5～6m/s 海象：波高 約1.5m、潮汐 上げ潮初期 特記事項：強風注意報が発表中であった。

<p>その他の事項</p>	<p>本船は、佐世保港の造船所で中間検査工事を終え、佐賀県唐津市^{かしわじま}神集島漁港に回航中で、同日13時00分に同港から発航する定期旅客便として運航する予定であった。船長は、沖ノ六ツ瀬に暗岩があることを知っていたが、運航開始時刻を気にしていたため、航程が短くなるように九十九島寄りの沖合を航行していた。</p> <p>事故当時、本船は、船長が1人で操船していた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり なし なし</p> <p>本船は、九十九島沖を北進中、沖ノ六ツ瀬付近を通過した際、暗岩に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>本船は、船長が、定期旅客便の運航開始時刻を気にして、航程が短くなるように航行していたため、沖ノ六ツ瀬に接近して航行していたものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、九十九島沖を北進中、沖ノ六ツ瀬付近を通過した際、同瀬に接近して航行していたため、暗岩に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>	